

聴覚障害児をもつ保護者支援の在り方

～ 全国聾学校調査からみた保護者支援 ～

Educational Support for the parents having children with deaf or hard hearing

長瀬さゆり*・池谷尚剛**

NAGASE Sayuri, IKETANI Naotake

I. はじめに

1. 聴覚障害児の早期発見

近年医学の進歩によって、新生児段階で中度難聴も発見できる電気生理学的手法による検査（OAE：耳音響反射検査・ABR：聴性脳幹反応聴力検査・AABR：自動聴性脳幹反応聴力検査）が開発された。AABRは、平成13年度に新生児聴覚スクリーニングとして新生児に試行的検査が開始され、平成14年度には、全国9自治体で試行された。（岡山・神奈川・秋田・栃木・東京・北海道・埼玉・佐賀・長野）。このような検査が実施されることによって、生後半年以内に軽度な聴覚障害児も確定診断ができ、適切な医療・教育等を開始することが可能になってきた。

聴覚障害はコミュニケーション障害とも言われ、聴覚機能や言語能力の発達の面から、可能な限り早く療育を開始すべきであると言われている。子どもへの支援と同じように、この時期の課題の一つとして、家族支援、子育て支援があげられる。

早期療育は、子どもの社会性の発達や親への心的援助を促すうえで大きな効果をもたらし、表1のように支援を行う機関が設置されている。それらの機関では一人ひとりの子どものニーズや家族のニーズに合わせた支援サービスが提供されている。

表1 乳幼児期の支援を行っている公的機関

管轄	障害児を専門に受け入れる形態	障害児と健常児を統合する形態
厚生労働省	・ 障害児通園施設 ・ 心身障害通園サービス事業 ・ 心身障害総合通園センター ・ その他（母子通園センター）	保育所
文部科学省	・ 特殊教育諸学校幼稚部	幼稚園

2. 保護者の障害受容と早期支援

我が子に障害があるという診断を受けた時、多くの両親（保護者）はショックを受ける。そのショックは計り知れないものであり、そこから立ち直るまでにはいくつかの段階を経て、障害の子をもった親として生きていこうと考えるようになる。そこで聴覚障害に携わる私たちは、親の気持ちを受け止め支援していく事が必要となる。ドローターは、障害を持つ子供を産み育てる親のたどる心理的段階を以下のように示している（図1）。

* 岐阜県立岐阜聾学校

** 教育学部障害児教育講座

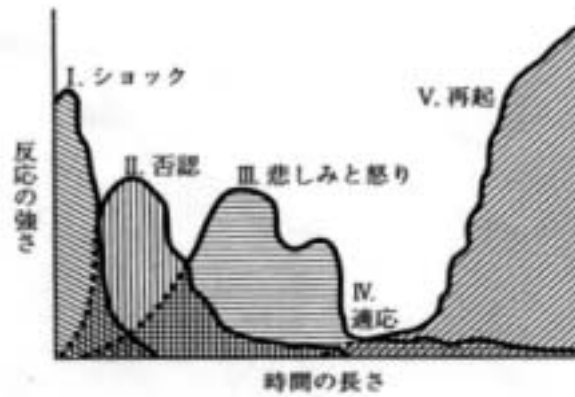


図1 障害をもつ子どもを産み育てる親のたどる心理的段階
(Droter, D.ら, 1975より)

ショックから立ち直って気持ちの整理が付くまでに早い人でも3ヶ月から遅い人では6～7年かかるようである。立ち直りの期間が長ければ長いほど子どもとの適切な関わりができにくく、子どもの発達に及ぼす影響は大きい(表2)。そのため早期に支援を行うことは言うまでもないことである。

表2 障害をもつ子どもを生み育てる親のたどる心理的段階

心理的段階	保護者の心理状態
ショックの段階	絶望視, すべてが無に帰し, 目の前が真っ暗になる。
否認の段階	自分の子どもに限ってこんな事があるはずがない, と事実を否定したくなる時期。医師のことばも信じられず, 自分の求める答えを出してくれる人を捜して, 様々な病院を巡り歩く。
悲しみと怒りの段階	悲しみや怒りを強く感じ, 運命に反抗したくなる。 「世の中は不公平だ」, 「何故自分だけ」等と思う。
適応の段階	よその人とも, 自分の子どもが聴覚障害者であることについて話せるようになる。くよくよしても仕方がない, 前向きに考えようとする。
再起の段階	気持ちの整理が付き, 積極的に子どもと向き合い取り組んでいけるようになる。子どものためになることなら何でもやってあげようという心境になる。

3. 聴覚障害児童生徒の発達課題

北海道聴覚障害教育研究会(2002)は「聴覚障害児の健全な発達を促す心の指導」の中で次のような発達課題をまとめている(表3)。

表3 人格が発達する発達段階毎の指導項目

発達段階	人格が完成する発達段階毎の指導項目
乳児期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回りの話を聞いて、話しことばを育てる ・ 周りのしていることを真似てやる気を育てる ・ 立つ・歩く・転ぶの基本動作を体得する ・ 親との信頼関係を培う
幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で見たり・考えたり・扱ってみようとする ・ 我慢することやゆずりあうことを身につける ・ 自然とふれ合い、友達と元気に遊ぶなどして、自立性を育てる
児童期・低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的目基本的な知識・技能を身につける ・ 豊かな情操を培う ・ 基本的な生活習慣を身につける ・ 遊びを豊かにし、体力の向上を図り、活動性を培わう
児童期・高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊び方を身につける ・ 意欲的に学習をする ・ 善悪を判断する ・ 望ましい行動をとる ・ 体の成長や心の変化を理解し、体力の向上と健康の増進を図る ・ 自発性を培わう
後期中等教育の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のねうちや持ち味を知る ・ 個性や能力の伸張に努める ・ 責任ある行動をとり、自分の義務を果たす ・ 体育やスポーツをとおして心身を鍛え、自ら健康安全に努める ・ 自己同一性を培う

4. 聴覚障害児童生徒の社会性と発達の特徴

一方、「社会性」に視点をあてた研究において、聴覚障害児の社会性の未熟さは、障害の特異性ではないと考えられている。障害の特徴的な行動として誤解される行動は、指導者や周囲の大人の働きかけによって改善が十分に望めると考えられるからである。

北海道聴覚障害研究会(2002)では「社会性に関する発達のな特徴」を以下のように示している(表4)。

表4 社会性に関する発達のな特徴

発達段階	発 達 的 特 徴
幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自我の感情が芽生える ・ 親との感情的な摩擦と解決過程を経験することが多くなる ・ 子どもの集団におけるふるまい方を覚え始める ・ 自己主張と他人との協調の仕方を身につける(初歩的なルールづくり) ・ 友達と簡単なルールに基づいて遊べる ・ 順番を待ったり友達と協同でおもちゃなどを使って遊んだりする
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内での親・兄弟関係が安定する ・ 学校やその他の場での教師や友達との新しい関係が形成する ・ 約束やルールなどで自己統制ができる ・ 規則の公平さや、大人からの公平な扱いを期待する ・ 大人との約束、学校や社会の簡単な規則を守り、集団で遊ぶことが増える ・ 他者の考えを理解し、それを尊重することができる
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の急激な成長に比べ、生活経験の不足、知識・能力の未熟、要求水準の高さ、内面的葛藤がある ・ 法律や社会的な制限、周辺の人的条件等、自分を取り巻く環境が条件障碍となり欲求不満になる ・ 他人と自分を比較し、その差異について価値づけ、劣等感や優越感を抱く ・ 自我に目覚め、親からの独立を願うようになり、親や周囲の大人と衝突する
高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女がそれぞれに成熟した体つきになってくる ・ 異性に対する関心が高まり、異性を理想化したり、自分の好みを明確にしていく ・ 知的発達は、一応その頂点に近づくが、受験勉強に追われたり志望と異なる高校に進学せざる得なかったり、重圧のかかる時期である。

5. 子どもの成長に伴った保護者支援

斉藤（2001）は、聾教育の中で両親への支援について必要な時期は以下の三つであると述べている。

【 障害の発見から教育の場までの「入り口」での支援 】
<ul style="list-style-type: none"> ・親の話を聞くなどの情緒面でのサポート ・家事や育児の手伝い，経済的援助などの手段的サポート ・必要な情報を伝える情動的サポート ・日常の行動の判断や大きな決断を助けるなどの評価サポート
【 小学校への「就学」の時の支援 】
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長過程でのサポート ・学校生活・家庭生活でのサポート
【 社会への「出口」の時の支援 】
<ul style="list-style-type: none"> ・進路・進学指導におけるサポート ・子どもの自己決定と両親の意見との調節という形のサポート

これらの時期は，子どもの成長過程・学校生活・家庭生活等の中で，保護者にとって様々なストレスを感じる大きな時期であると考えられ，学校としての支援が強く求められる時期であると言われている。

山形聾学校（1997）では，母親支援についての方針として以下のような実践を行っている（表5）。

表5 山形聾学校での母親支援の方針

支 援 の 方 針	支 援 内 容
心理的支援	不安や悩みを共感的に受け止め，母親が安定した気持ちで子どもと関われるよう支援する。
情報提供の支援	母親が子どもの障害や発達について正しい知識を持ち，どんな配慮が必要かが理解できるよう支援する。
子ども理解の支援	子どもの実態を正しく理解し，現在の発達課題や今求められている関わりを，母親自ら見いだせるよう支援する。
実践的支援	理解したことを実践できるように，具体的場面でアドバイスしたり，モデルを示したりして支援する。
環境調整の支援	母親が家族の中で孤立せず，家族の理解と協力を得て育児できるよう支援する。

小林ら（1999）は，新生児期から軽度の聴覚障害を発見できるようになればなるほど早期教育は必要であり，それとともに家族支援のあり方も重要になってくると述べている。

また，斉藤（2001）は，これからの聴覚障害児の教育の課題は，思春期の年齢にいる聴覚障害児の両親支援であると述べている。市場（2002）も，思春期の生徒達が障害認識に関して様々な困難を抱えていることを考えると，その年齢の子どもを持つ保護者に対してもより積極的な支援が必要だと述べている。調査の中で，中・高生が自分の障害

に関する認識として「聴覚障害をいつかは治ると思っている」とか「障害を隠そうとする」「自分は同級生たちとは違う＝聴覚障害者ではない」等のとらえをしているという結果が得られている。

自分の障害をこのように認識している子ども達が、保護者と向き合って話し合ったり考えたりすることは、障害を知り自己を受け入れ大勢の他者(集団)の中で自己を表現できる基盤になると考える。

そのためには、子ども支援とともに保護者支援が課題となってくる。そこで、聾学校では保護者に対してどのような情報提供をしているのか。また保護者はどのように子どもを認識しどのような情報を求めているのかを調査し、保護者支援のための聾学校としての役割を考えていきたい。

Ⅱ．方法(全国聾学校調査)

1．目的

(1) 全国の聾学校の保護者への支援の在り方として、「障害認識」に関する情報をどのような形で提供しているのか

(2) 思春期の子どもをもつ保護者は「障害認識」に関してどのような意識をもっているのか

学校に対してどのような情報を求めているのか

以上について調査し、学校としてできる保護者支援の在り方について考察する。

2．方法

(1) 調査対象

全国の聾学校106校中、中学部・高等部設置校97校に回答を依頼〔学校を対象とした調査〕

東海地区の中学部・高等部設置校のうち5校の中学部・高等部の保護者に回答を依頼〔保護者を対象とした調査〕

(2) 調査方法

郵送によるアンケート調査

保護者用の調査表は、各学校の対象学部保護者に依頼

(3) 調査内容

以下の項目を含む質問紙を作成した。(全文は資料参照)

「保護者への障害認識に関する調査」(学校用)

- ・「障害認識」に関する23項目についてどのような方法で情報を提供しているか
- ・保護者の「障害認識」に関する認識の弱い情報は何か、どのような形で提供していくか

「保護者の障害認識に関する調査」(保護者用)

- ・「障害認識」に関する23項目についてどの程度認識しているか
- ・ご自身のお子さんは「障害認識」23項目をどの程度認識していると思うか
- ・「障害認識」に関する23項目の中で関心の高い項目は何か

調査用紙に用いた「障害認識」に関する23項目については、下記の表6に示す通りである。項目については、市場(2002)の研究・調査をもとに作成した。

表6 アンケート障害認識に関する23項目

分類	項目
聴覚に関する項目	1) 聴覚障害の原因 2) 難聴の程度と種類 3) 補聴器の仕組みと調整 4) 人工内耳のしくみ 5) 聴覚活用の実際と評価
コミュニケーション手段に関する項目	6) 発音の指導と評価 7) 読話の指導と評価 8) キュードスピーチの指導と評価 9) 指文字の指導と評価 10) 手話の指導と評価
福祉に関する項目	11) 障害者手帳の意味と手続き 12) 聴覚障害者用補装具・日常生活用品と手続き 13) 手話通訳者の役割と依頼手続き 14) 筆記通訳者の役割と依頼手続き 15) 聴覚障害者用情報メディア(字幕・手話付きビデオ等)
聴覚障害者の歴史や文化に関する項目	16) 聴覚障害者の歴史 17) 聴覚障害教育の歴史 18) 聴覚障害者の文化活動(手話劇等) 19) 聴覚障害者の社会活動(ろうあ協会等) 20) 保護者・関連団体の活動(PTA・同窓会) 21) ろう重複障害児(者)の教育と生活 22) 世界の聴覚障害者及び組織と活動 23) バリアフリーとユニバーサルデザイン

(4) 回収

「保護者への障害認識に関する調査」(学校用) 59.7%(58校/97校)

「保護者の障害認識に関する調査」(保護者用) 32.4%(72名/222名)

3. 結果及び考察

【学校を対象とした調査】

(1) 保護者への障害認識に関する情報提供について(複数回答可)(図2)

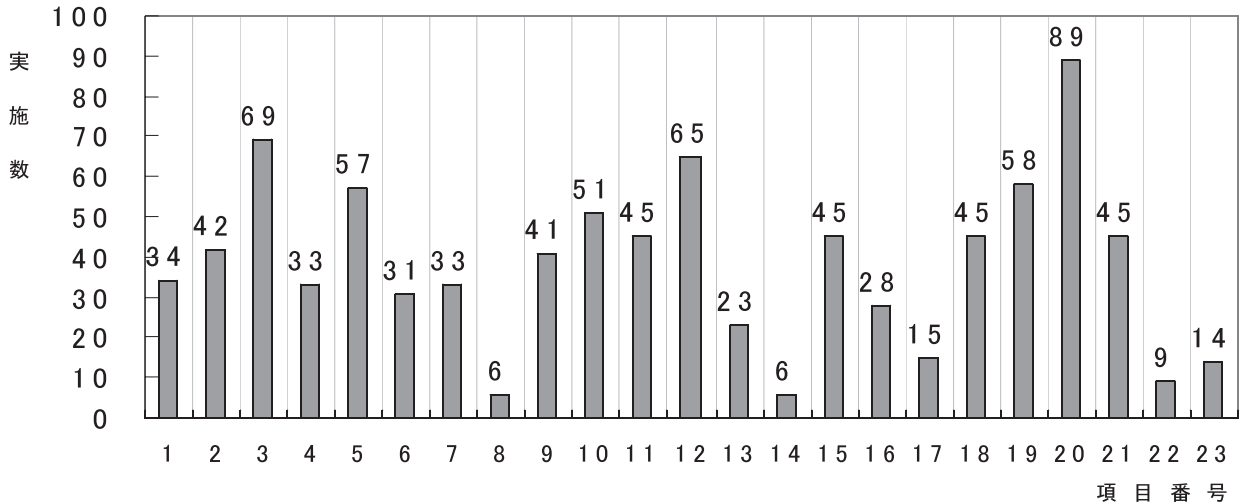


図2 項目ごとの情報提供数

保護者に提供している項目で最も多かったのは、「保護者・関連団体の活動」(89)次いで「補聴器の仕組みと調整」(69)「聴覚障害者用補装具・日常生活用具と手続き」(65)であった。反面「キョードスピーチの指導と評価」や「筆記通訳者の役割と依頼手続き」などの情報提供は少ないことがわかる。

聴覚に関する項目では、3)補聴器のしくみや特性5)聴覚活用の実際と評価に関する情報が多く提供されている。

コミュニケーション手段に関する項目では、10)手話の指導と評価に関する情報が多く提供されている。

福祉に関する項目では、12)生活に役立つ日常品の紹介や購入方法等の情報が一番多く、実際に文化祭等で展示をしているという学校の回答もあった。

聴覚障害者の歴史や文化に関する項目では、社会自立を意識できるよう文化活動・社会活動等の情報が多い。また、学校からの情報というよりもPTA活動の一環として情報を提供しているという報告が多かった。

(2) 保護者への情報提供について、学部ごとの実施状況(図3)

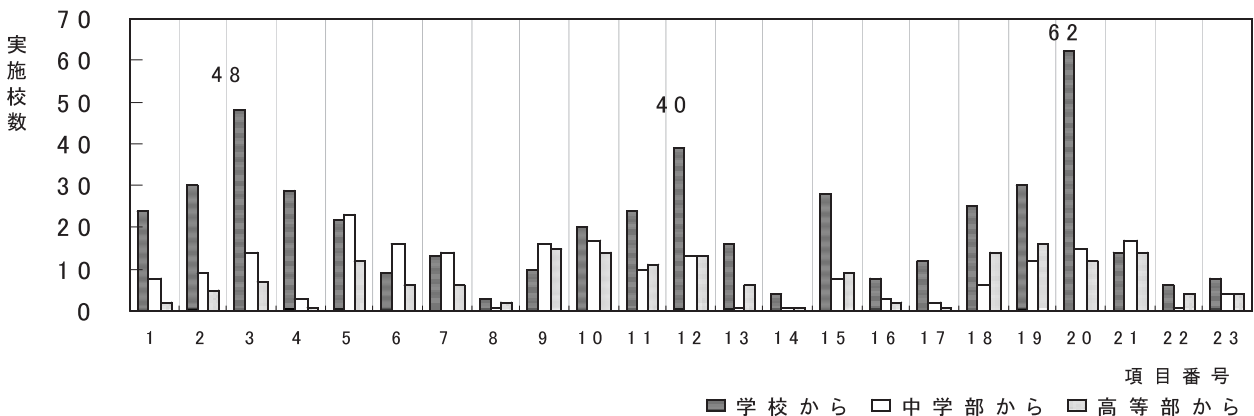


図3 学部ごとの保護者への情報提供

20) 保護者・関連団体の活動(62)や3)補聴器のしくみと調整(48),12)聴覚障害者用補装具日常生活用品と手続き(40)に関する情報提供は、学校全体で実施していることがわかる。しかし、一方で、6)~10)のコミュニケーション手段に関する項目については、中学部独自で取り扱っている学校が多い。これは次の2点が要因と考えられる。中学部から手話や指文字等のコミュニケーション手段を取り入れた取り組みがされる。

実態に合わせて保護者への情報提供が多くなる。

(3) 保護者への情報提供の方法について

保護者への情報提供を、通信、ITホームページ、校内掲示板、部懇談、家庭訪問、講演会、学習会などの方法で提供しているのかを尋ねた。

以下の図は、保護者に対する情報提供について方法ごとにまとめたものである。

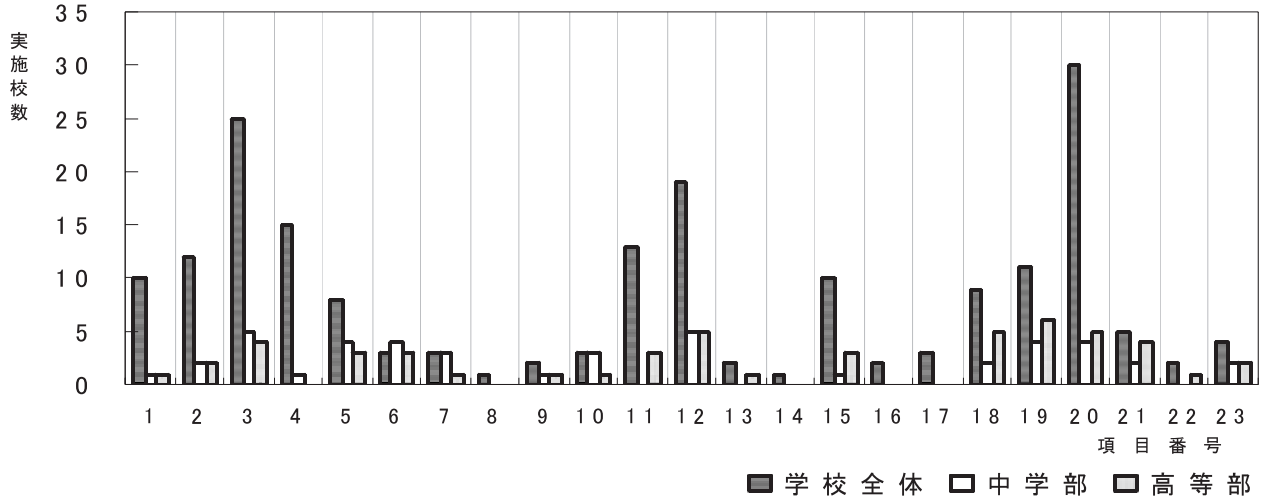


図4-1 通信による情報提供

「通信」による情報提供(図4-1)では、どの項目も学校全体として取り上げている学校が多い。20)保護者・関連団体の活動、3)補聴器のしくみと調整、12)聴覚障害者の補装具・日常生活用品の手続きの項目が多く、8)キュードスピーチの指導と評価や14)筆記通訳者の役割と依頼手続き22)世界の聴覚障害者及び組織と活動等に関する情報を提供している学校は少ない。

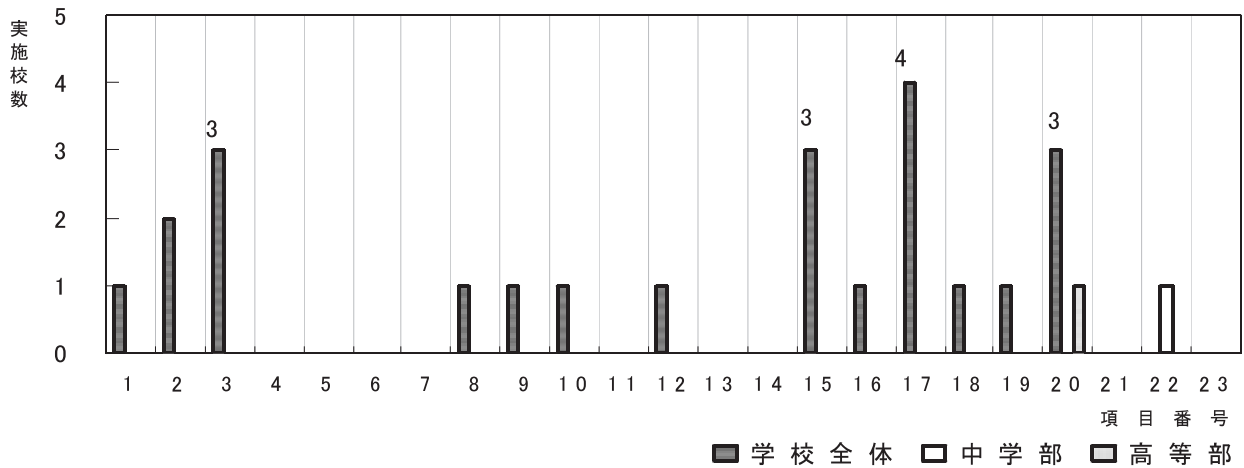


図4-2 ITホームページによる情報提供

「ITホームページ」による情報提供(図4-2)を実施している学校は2.8%(25/884実施)と、全体的に少ないといえる。また、「実施している」と回答のあった学校の中でも、その方法は学部単位で提供しているのではなく、学校全体として取り扱っていることがわかる。このことは、それぞれの学校でホームページを作っているが、発信(学校)と受信(家庭・地域の関連諸機関)との関係・整備が十分に進んでいないからではないかと考えられる。

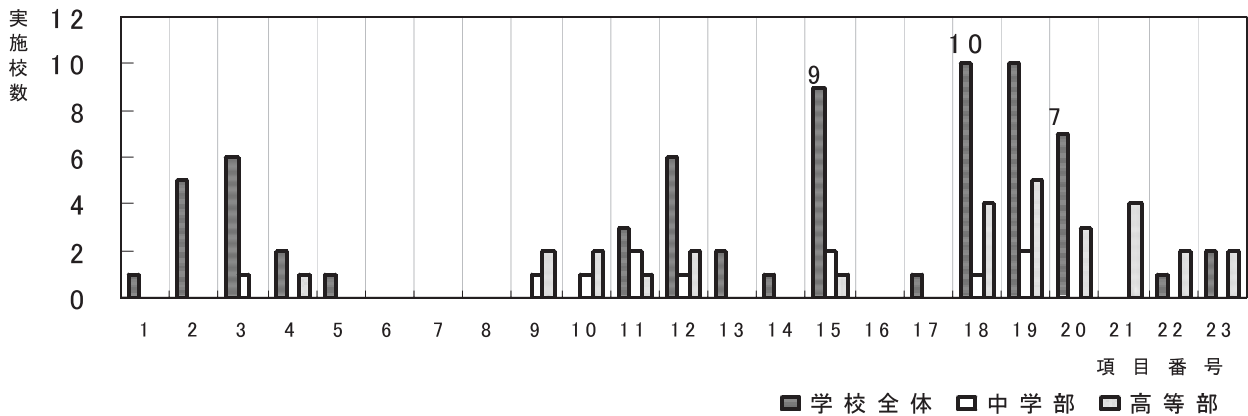


図4 3 校内掲示板による情報提供

「校内掲示板」を活用した情報提供(図4 3)では、18)聴覚障害者の文化活動19)聴覚障害者の社会活動15)聴覚障害者用情報メディアに関する項目が、学校全体として多く取り上げられている。また、18)聴覚障害者の文化活動19)聴覚障害者の社会活動については、高等部独自で扱っているという調査結果も見逃すことはできない。このことは、保護者だけでなく生徒の意識・関心が高いことの表れであろうと考えられる。

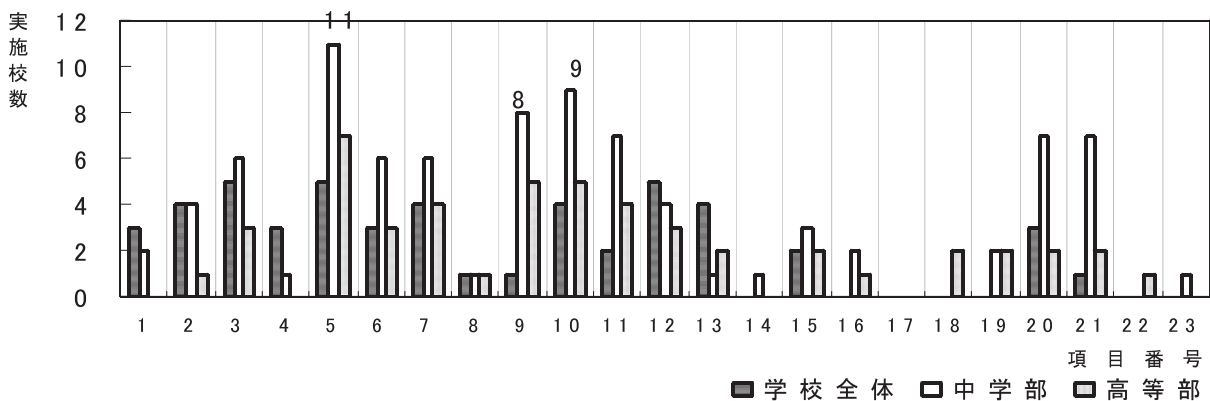


図4 4 部懇談による情報提供

「部懇談」による情報提供(図4 4)では、ほとんどの項目を中学部独自で取り組んでいることが分かる。特に、5)活用の実際と評価、9)指文字の指導と評価、10)手話の指導と評価11)障害者手帳の意味と手続き等は、生徒の障害認識の指導と合わせて保護者にも情報が提供されているのではないかと考えられる。

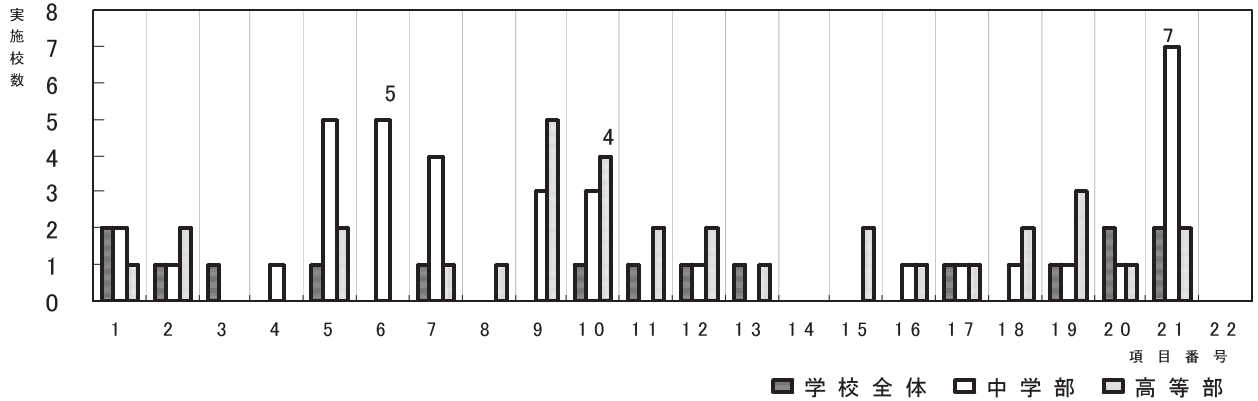


図4-5 家庭訪問による情報提供

「家庭訪問」による情報提供（図4-5）では、21)ろう重複障害児（者）の教育と生活5)聴覚活用の実際と評価6)発音の指導と評価（中学部独自）、9)指文字の指導と評価（高等部独自）を取り上げている学校が多い。しかし、細かくみてみるとほとんどの学校で、「個々の生徒の実態に合わせて対応する」という回答が多かった。

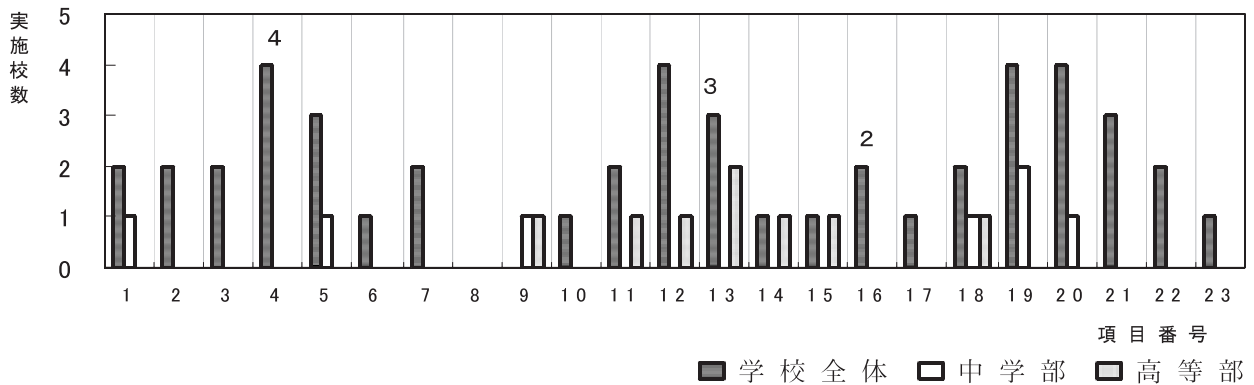


図4-6 講演会による情報提供

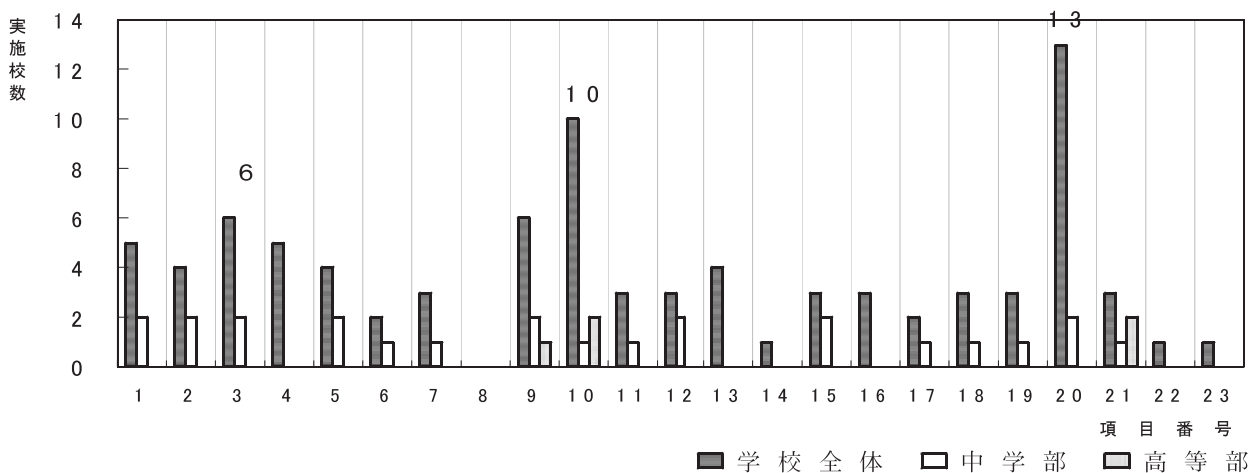


図4-7 学習会による情報提供

「講演会」や「学習会」による情報提供（図4-6、4-7）では、ほとんどの項目を全保護者を対象に実施している学校が多い。このような会では、話の内容を一つの項目に絞って実施するという事は難しく、いろいろな項目を取り上げて実施しているという回答が多かった。

(4) 保護者への情報提供の在り方について

保護者の「障害認識」について認識の低い項目とその提供方法について記述していただいた。回答の中で多かった項目は、以下の四点であった。

- 手話に関すること
- 聴覚障害者の歴史に関すること
- 聴覚障害者の社会活動に関すること
- 聴覚障害者の日常生活用品に関すること

方法については、学校便りや学部通信等だけではなく、学習会や講習会など実際に学ぶ場も設けて情報提供をしていきたいという回答が多かった。これは大変興味深い結果で、手話に対して学校側や保護者が高い意識を示しているからだと考えられる。聴覚障害の歴史や社会活動等については、「実際に成人聾者を招いて学習会を行いたい」と答えた学校が多かった。学校職員も保護者も実際に社会人として活躍している聾者から情報を得ることが必要だと考えているからだと思われる。

学校側からの情報提供が少なかった「ろう重複聴覚障害児(者)の教育と生活」や「ユニバーサルデザインとバリアフリー」については施設見学を行い理解啓発を図りたい、と考えている学校もあった。

また、23項目以外に提供したい情報としては、進路に関することと答えている学校があった。これは、社会自立を目前にした子ども達に対して、保護者の意識を高めるための支援をしていきたいからだと思われる。

【保護者を対象とした調査】

(1) 保護者の障害認識について

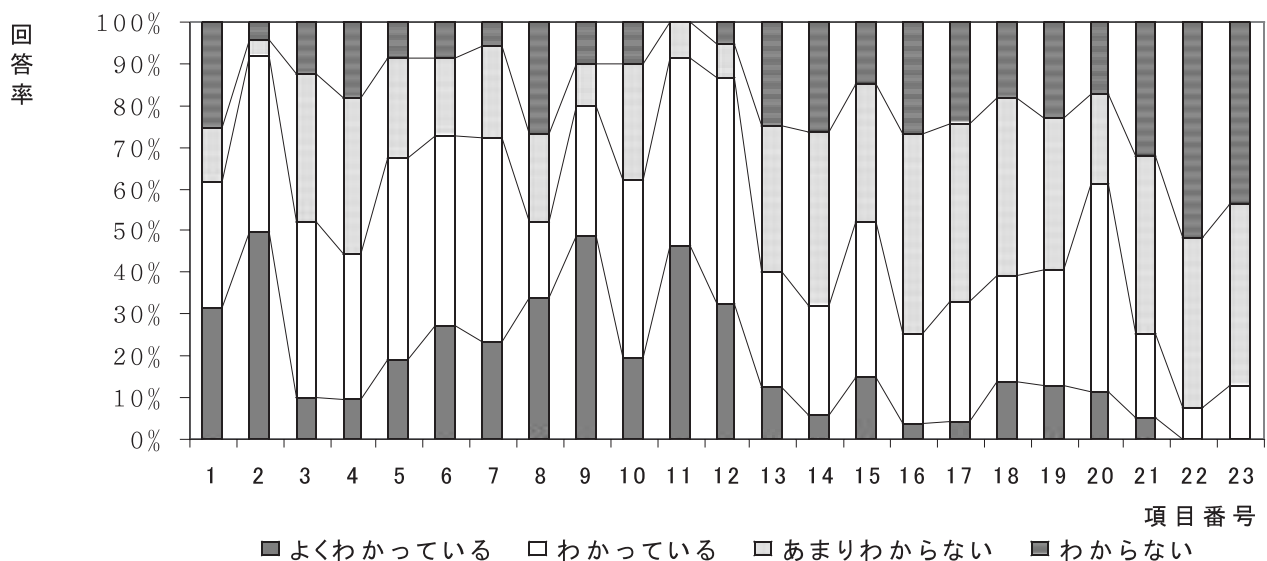


図5 1 保護者の障害認識に関する意識

ここでは、保護者自身がどの程度子どもの障害を認識しているのかを尋ねた(図5-1)。項目では以下の3点が「よくわかっている・わかっている」と答えている。

- 2) 難聴の程度と種類
- 11) 障害者手帳の意味と手続き
- 12) 聴覚障害者用補装具・日常生活用品と手続き

その反面、22) 世界の聴覚障害者および組織と活動, 23) バリアフリーとユニバーサルデザインについては、「よくわかっている・わかっている」と答えた保護者は少なかった。この項目に関しては学校からの情報提供が少ないことから保護者の認識が低いと考えられる。

(2) 「我が子の障害認識」に関する保護者の理解について

保護者の立場から、ご自分のお子さんが、障害認識に関してどの程度の意識があるかについて回答をいただいた(図5-2)

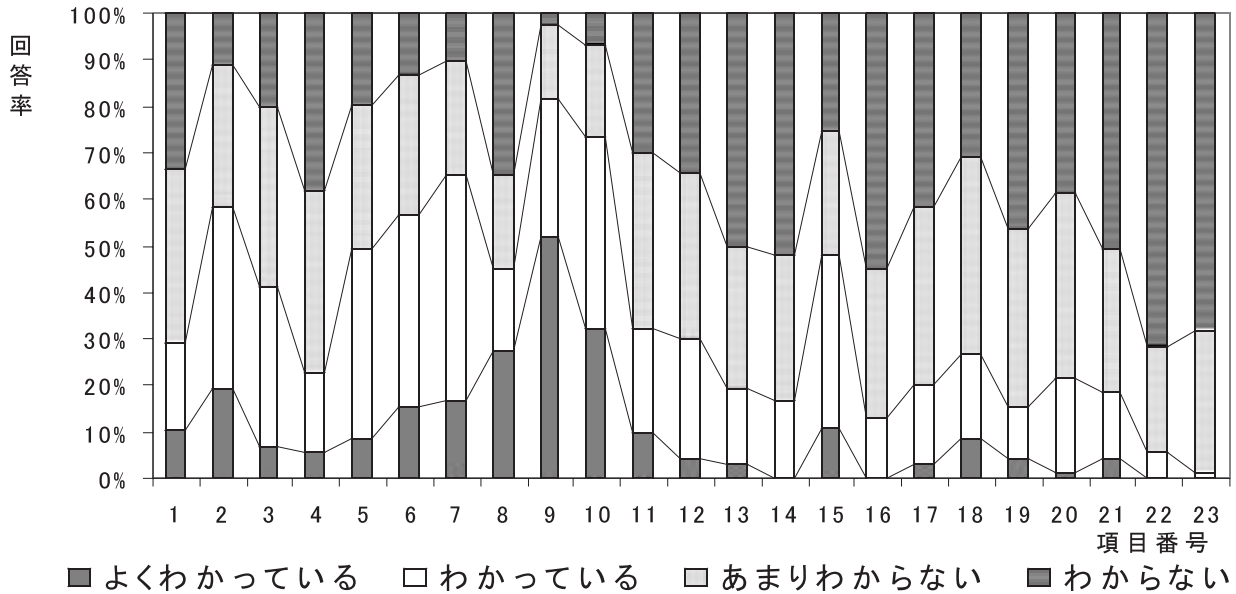


図5-2 お子さんに対する障害認識について

1)~5)の「聴覚に関する項目」や6)~10)の「コミュニケーションに関する項目」に比べると、11)~15)の「福祉に関する項目」16)~23)の「聴覚障害者の歴史や文化に関する項目」については、自分の子どもは「あまりわかっていない・わかっていない」と感じている保護者が多いことがわかる。その反面、コミュニケーション手段の項目の中で指文字や手話についてよくわかっているという回答が多かったのは、日頃お子さんをよく見ているからだと考える。11)以降の「福祉に関する項目」「聴覚障害者の歴史や文化に関する項目」は中学部・高等部の自立活動で実施していると答えている学校が多いにもかかわらず、このような結果が得られたのは、子どもの保護者との会話に、学校で得た情報があまり話題にされていないという現状が考えられる。

(3) 保護者が情報を得る機関について

保護者が情報をどこから得ているのかを尋ねたところ、表7のような結果が得られた。

表7 保護者が情報を得る機関

情報を得る機関	学 校	聴覚者協会から	聴覚障害児をもつ保護者	聴覚障害者本人(成人聾者)
回答(複数回答可)	59人	36人	28人	13人

ほとんどの保護者が、学校からの情報に頼っていることがわかる。聴覚障害者(成人聾者)本人から情報を得るとい保護者が少ないのは、保護者が成人聾者と交流する機会が少ないということが言えるのではないか。

(4) 保護者が求める「障害認識」に関する情報について

「障害認識」の項目の中で、関心のある項目について回答をいただいた(図5-3)。

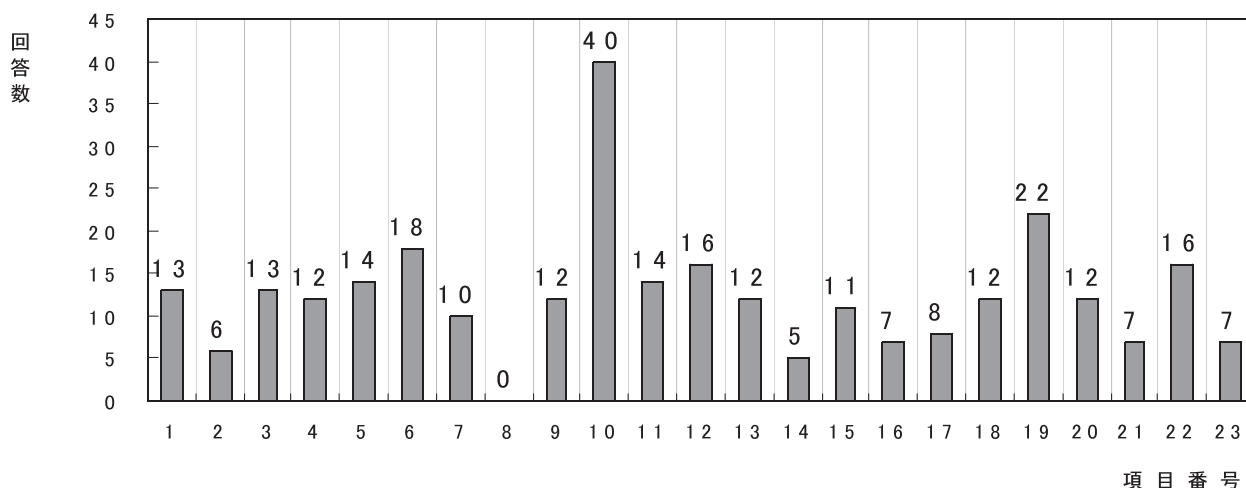


図5 3 関心の高い項目

保護者の最も関心の高い項目は「手話(40人・52%)」に関するもので、半数以上の保護者が関心を持っていることがわかる。次いで多かったのは、聴覚障害者の社会活動(22人・29%)であり、学校以外での活動や情報に目を向けようとする保護者の関心の表れだと考えられる。

Ⅲ．総合考察

今回の調査では、中学部・高等部の保護者を対象とした情報提供はあまりなく、ほとんどの学校は全保護者に向けて実施していることがわかった。情報提供の方法については、通信等紙面での情報提供が多いが、通信をとおして学校側の意図が十分伝わっているのかは確認できていない。

また、学校側が提供している情報と保護者が求めている情報には、若干のズレが見られることがわかった。

また、学校側として、「成人聾者を招いた学習会を実施にしたい」という結果が得られたことは大変興味深いものと思われる。これまで子ども達を対象として、「自立活動」や「進路指導」の取り組みの中で、成人聾者の話を聞くという取り組みは多くなされていたが、保護者に対しても必要という結果が得られたということは、聴覚に障害をもった子ども達を理解する上で、ロールモデルの存在は大切だと考えている学校が多いということがいえるのではないだろうか。

今回の調査では、保護者は子どもの成長に応じた情報を求めていることがわかった。このような保護者のニーズに応えるためにも、学校側としてはまず、職員が正しい知識・情報を得るための研修の機会が必要になってくるのではないと思われる。

今後は保護者が求める情報は何かをアンケート等を活用して、保護者のニーズに応えることができるようにすることも必要と思われる。

Ⅳ．参考文献

- ・山形県立山形聾学校 富田俊子(1997): 安定した母子関係を基盤に豊かなコミュニケーションを育てる取り組み ~ 両親援助を中心に ~, 聴覚障害12月号
- ・小林倫子・久保山茂樹(1999): 障害児の早期からの教育における保護者支援, 国立特殊教育総合研究所研究紀要第26巻
- ・斉藤佐和(2001): 両親援助, 聴覚障害12月号
- ・市場祐子・小田候朗(2002): 聾学校における障害認識への教育的関わりについての調査研究 国立特殊教育研究所長期研修 研修成果報告書
- ・第13次北海道聴覚障害教育研究会(2002): 聴覚障害児の健全な発達を促す心の指導

学校調査

項目	メディア(方法)	通 信	ITホーム ペ ー ジ	校 内 掲 示 板	部 懇 談	家庭訪問	講 演 会	学 習 会
保護者・関連団体の活動 (PTA・同窓会活動)								
ろう重複障害児(者)の生活と 教育								
世界の聴覚障害者及び組織と活動								
バリアフリーと ユニバーサル・デザイン								
そ の 他								

問2. 次の質問回答を下記の表におかきください。

保護者が自分の子どもの「障害認識」について、認識の低いと思われる内容を上記の表から3つ選んでお書きください。

また、その項目について今後どのような方法で支援しようとお考えですか。それぞれの支援方法をお書きください。

障害認識の項目	支 援 方 法

お忙しいところご協力いただき、本当にありがとうございました。

保護者の障害認識に関する調査

【 聾学校 】 保護者用

お忙しい中大変申し訳ございませんが、ご協力お願いします。

問1．回答される方に伺います。

- (1) お子さんの学部 [・ 中学部 ・ 高等部]
 (2) お子さんの性別 [・ 男 ・ 女]
 (3) 回答される方との続柄 [・ 父 ・ 母 ・ 祖父 ・ 祖母 ・ その他 ()]

問2．下記の表の障害認識の項目について、ご自分とご自分の「お子さんに対して」で、ご自身がどのように認識しているか、あてはまるものに必ず をつけてください。

(例) 項目「人工内耳のしくみ」について、ご自分は よくわかっている と思っている場合は表の に をつけてください。同じく、ご自分のお子さんは よくわかっている と思っている場合は表の に をつけてください。

項 目	ご自身について	ご自分のお子さんに対して
	よ っ っ っ っ く て っ っ っ わ い わ い か る っ っ っ ① ② ③ ④	よ っ っ っ っ く て っ っ っ わ い わ い か る っ っ っ ① ② ③ ④
聴覚障害の原因	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
難聴の程度と種類	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
補聴器のしくみと調整	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
発音について	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
読話について	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
キョードスピーチについて	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
指文字について	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
手話について	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

項目	ご自身について	ご自分のお子さんに対して								
	<table border="0"> <tr> <td>よ く つ て わ い か る ①</td> <td>わ い る か っ て ②</td> <td>あ ま り な い わ い ③</td> <td>わ い か ら な い ④</td> </tr> </table>	よ く つ て わ い か る ①	わ い る か っ て ②	あ ま り な い わ い ③	わ い か ら な い ④	<table border="0"> <tr> <td>よ く つ て わ い か る ①</td> <td>わ い る か っ て ②</td> <td>あ ま り な い わ い ③</td> <td>わ い か ら な い ④</td> </tr> </table>	よ く つ て わ い か る ①	わ い る か っ て ②	あ ま り な い わ い ③	わ い か ら な い ④
よ く つ て わ い か る ①	わ い る か っ て ②	あ ま り な い わ い ③	わ い か ら な い ④							
よ く つ て わ い か る ①	わ い る か っ て ②	あ ま り な い わ い ③	わ い か ら な い ④							
障害者手帳の意味と手続き	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
聴覚障害者用補装具・日常生活用具と手続き	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
手話通訳者の役割と依頼手続き	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
筆記通訳者の役割と依頼手続き	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
聴覚障害者用情報メディア (字幕・手話付きビデオ)	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
聴覚障害者の歴史	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
聴覚障害教育の歴史	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
聴覚障害の文化活動 (手話劇等)	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
聴覚障害の社会活動 (ろうあ連盟・協会・聴覚障害者協会等)	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
保護者・関連団体の活動 (PTA・同窓会等)	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
ろう重複障害児(者)の 教育と生活	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
世界の聴覚障害者及び組織と 活動	<input type="text"/>	<input type="text"/>								
バリアフリーと ユニバーサル・デザイン	<input type="text"/>	<input type="text"/>								

問3. 上記の「障害認識」に関する情報は主にどのような機関から得ていますか、あてはまるものにつけてください(複数回答可)

- ・学校(通信・講演会・学習会等) ()
- ・聴覚障害者協会(機関誌・新聞等) ()
- ・聴覚障害児(者)をもつ保護者から ()
- ・聴覚障害者本人から ()

問4. 「障害認識」の項目で、関心の高いものを選んでください。（複数回答可）

項目	印	項目	印
聴覚障害の原因		手話通訳者の役割と依頼手続き	
難聴の程度と種類		筆記通訳者の役割と依頼手続き	
補聴器のしくみと調整		聴覚障害者用情報メディア (字幕・手話付きビデオ)	
人工内耳のしくみ		聴覚障害者の歴史	
聴覚活用について		聴覚障害教育の歴史	
発音について		聴覚障害の文化活動(手話劇等)	
読話について		聴覚障害の社会活動 (ろうあ連盟・協会・聴覚障害者協会)	
キュート ^o スピーチについて		保護者・関連団体の活動 (PTA・同窓会等)	
指文字について		ろう重複障害児(者)の教育と生活	
手話について		世界の聴覚障害者及び組織と活動	
障害者手帳の意味と手続き		バリアフリーとユニバーサル・デザイン	
聴覚障害者用補装具・日常生活用具と手続き			

お忙しいところご協力いただき、本当にありがとうございました。